

# がん相談業務 (院内におけるピアサポート)

## 相談記録シート集計報告

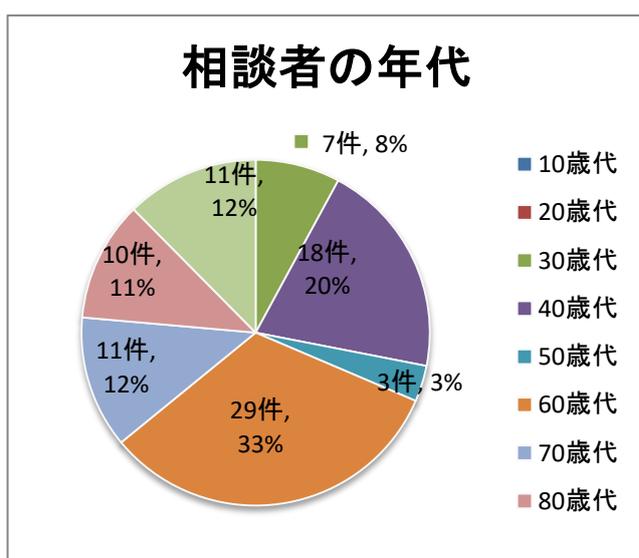
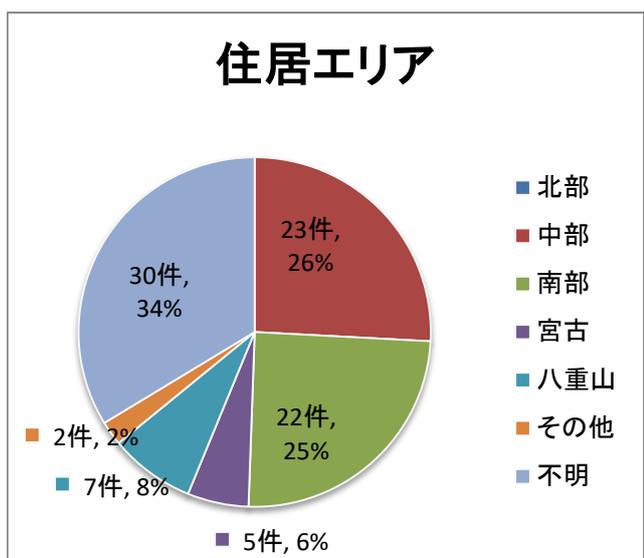
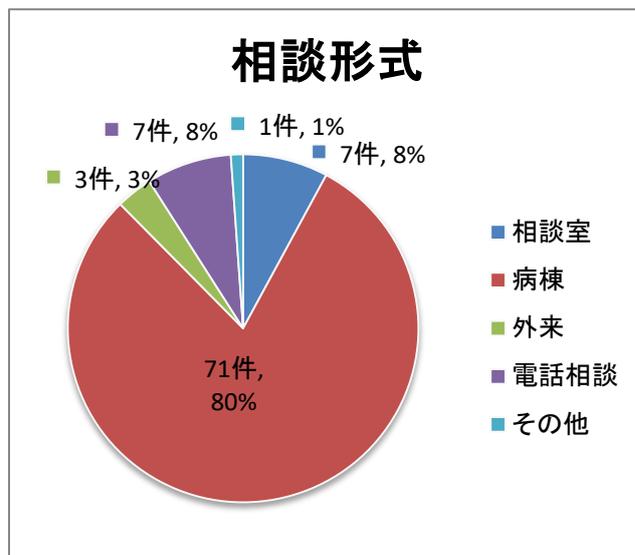
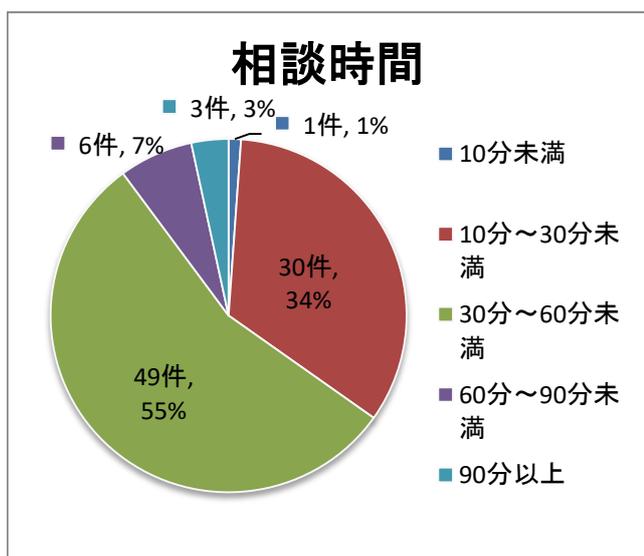
実施期間：令和元年10月1日～令和元年12月31日

# がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

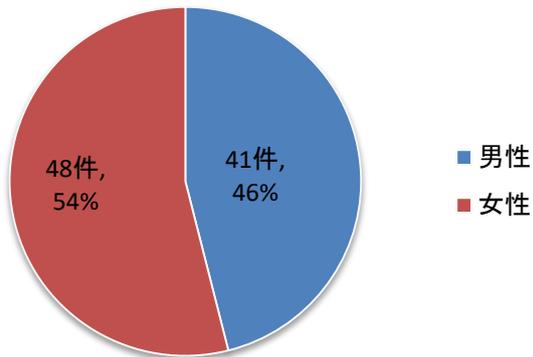
■ 調査対象期間 令和元年10月1日～令和元年12月31日

■ 調査件数 89 件

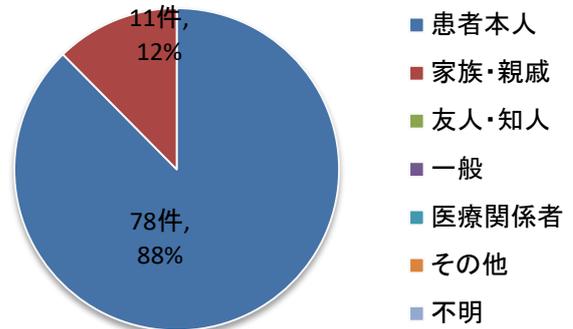
相談月	件数
10月	32
11月	33
12月	24
合計	89



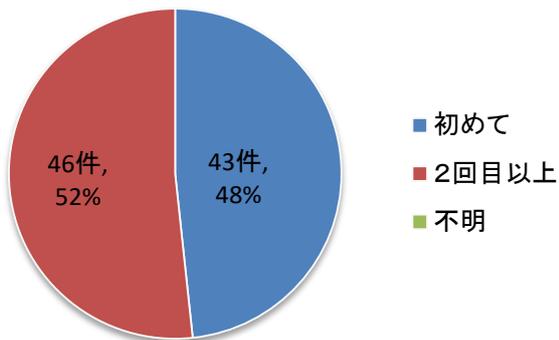
### 相談者の性別



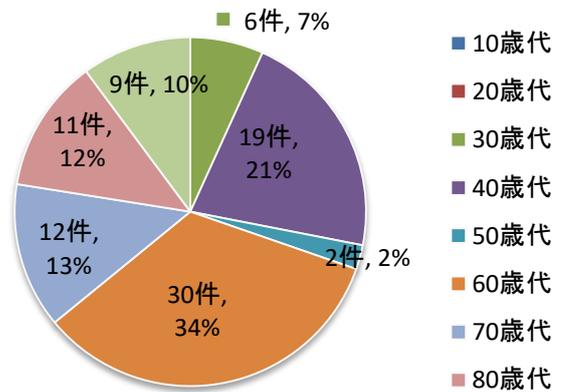
### 相談者のカテゴリー



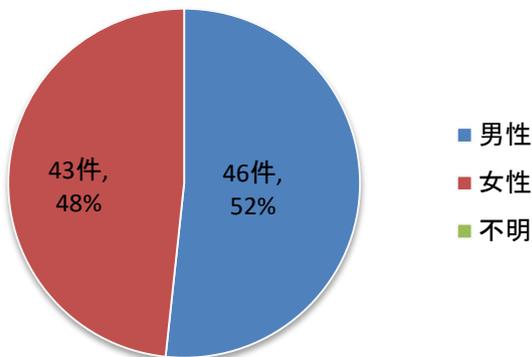
### 相談者の利用回数



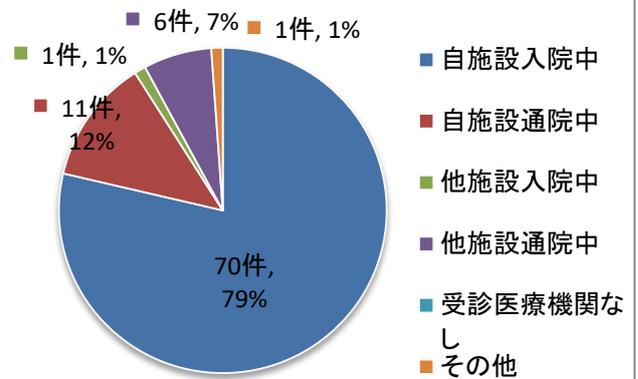
### 患者本人の年代



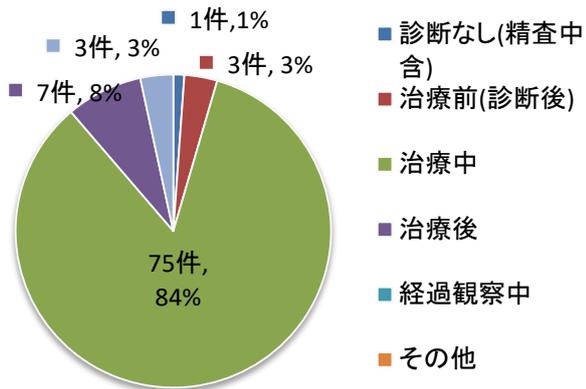
### 患者本人の性別



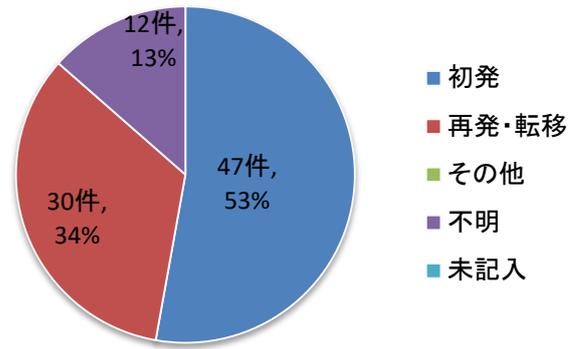
### 受診状況



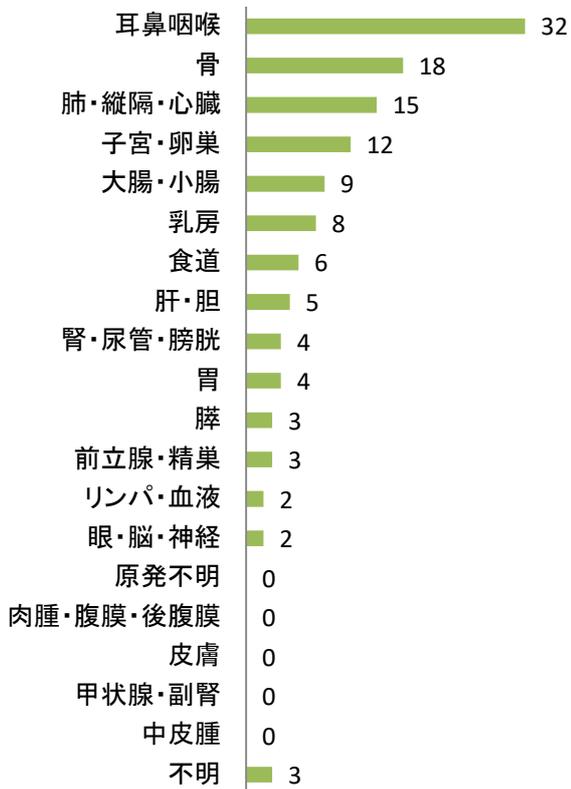
## 現在の治療状況



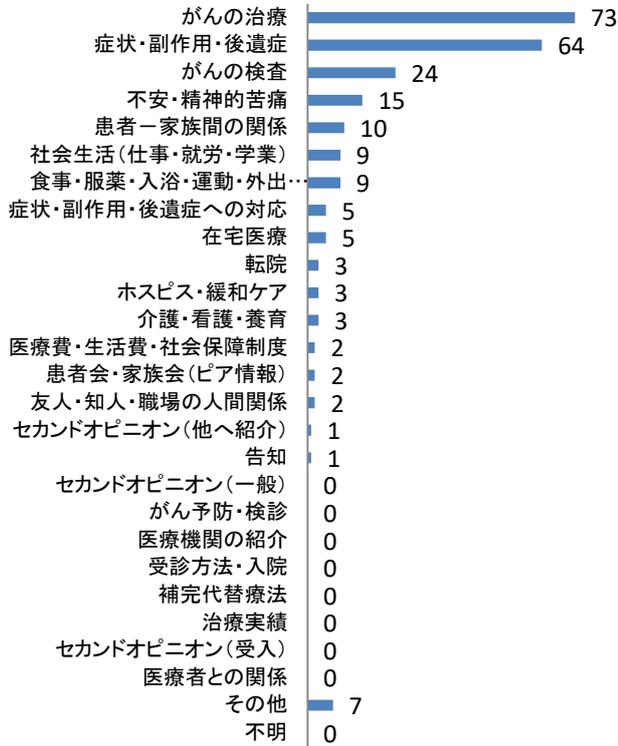
## がんの状況



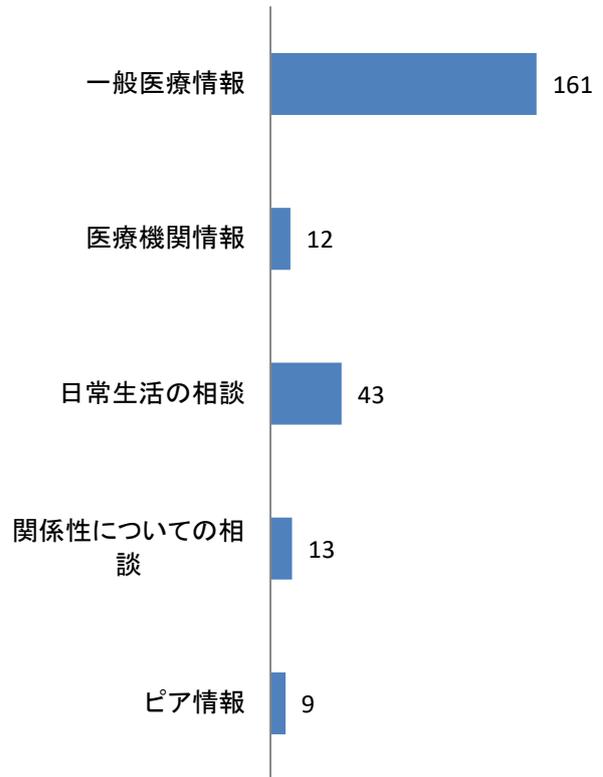
## がんの部位



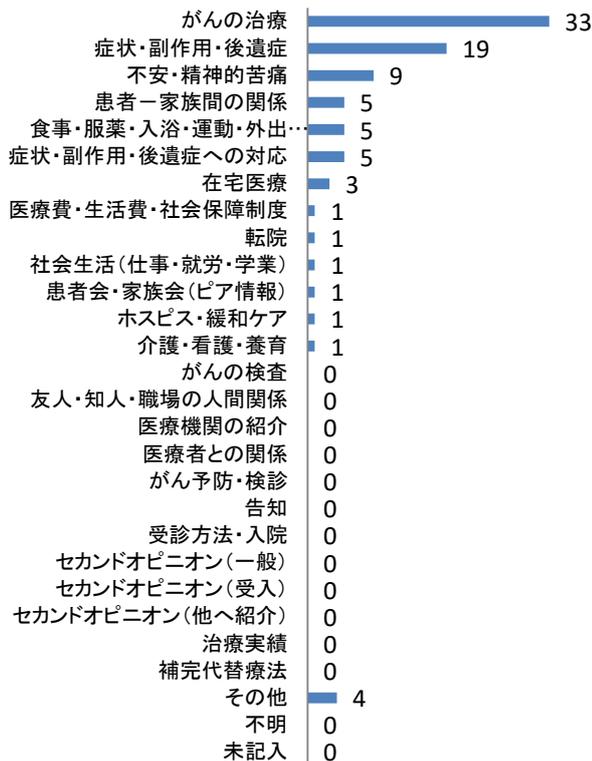
### 相談内容 (実施したものすべて)



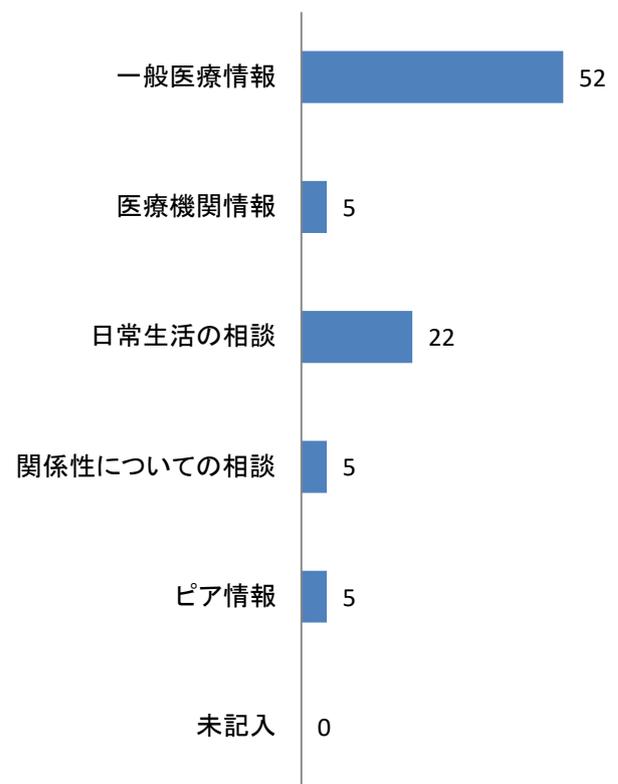
### 相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



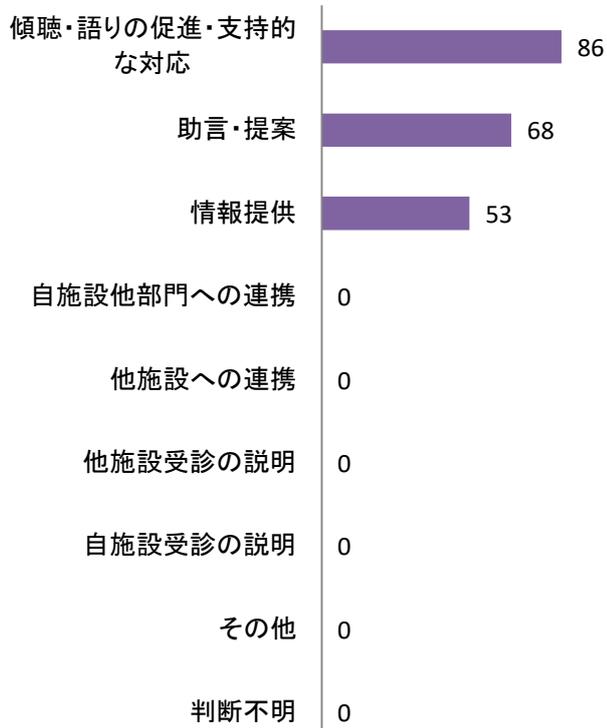
### 相談内容 (最も比重の高いもの)



### 相談内容 (最も比重の高いもの・大項目別)



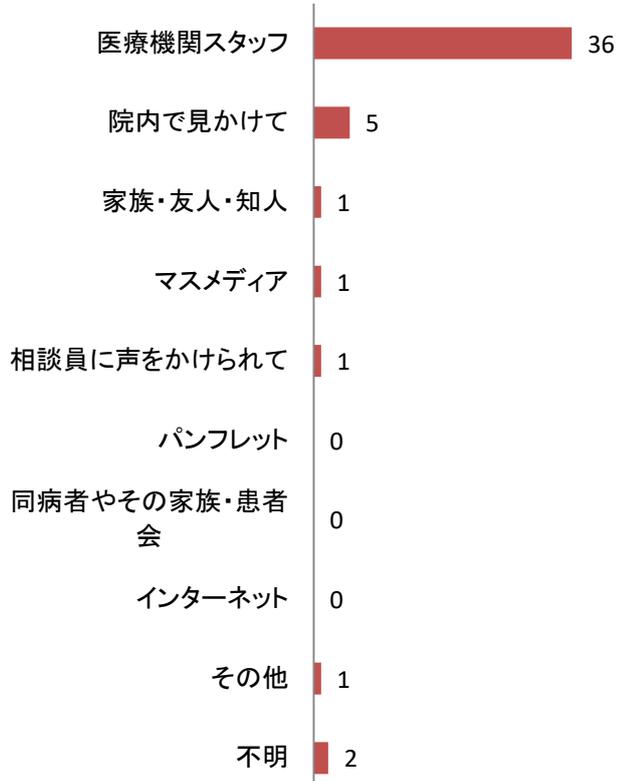
## 対応内容 (実施したもののすべて)



## 対応内容 (最も比重の高いもの)



## 認知経路



令和元年度

がんピアサポーター養成講座

開催報告

実施日：令和元年10月19日（土）～20日（日）

【名 称】 令和元年度 がんピアサポーター養成講座

【目 的】 ①これから「ピアサポート」を始める方が、1対1での対応に関する基本的な事項を学ぶ  
②受講生同士に仲間意識を持たせ、今後のセンター及び個々の活動が互いに連携できる環境をつくる

【概 要】

1. 日 時 令和元年 10月19日（土）10：00～17：00  
20日（日）10：00～17：00
2. 場 所 琉球大学医学部附属病院 大学院セミナー室
3. 対 象 下記①～④すべてに該当する方  
①がん患者およびがん患者のご家族、ご遺族  
②最終治療後2年以上が経過し、現在病状の安定している方  
③全日程参加できる方  
④受講後、治療や仕事や生活に支障がない範囲で当センターの登録がんピアサポーターとして活動できる方
4. 主 催 沖縄県地域統括相談支援センター（令和元年度 沖縄県委託事業）
5. 共 催 琉球大学医学部附属病院がんセンター
6. 参加費 無料

※ 公益財団法人 日本対がん協会作成  
「平成24年度 厚生労働省委託事業  
がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」  
研修テキスト がんピアサポーター編  
～これからピアサポートをはじめる人へ～ 使用

※ 「平成30年度 厚生労働省委託事業  
がん総合相談に携わる者に対する研修事業」  
ピア養成研修ワーキンググループ作成版テキスト 使用

## 【プログラム別内容】

### 自己紹介

- ・アイスブレイキングとして行うことで、受講生が互いを知ることができる。

### ピアサポートとは

- ・ピアサポートの定義、重要性、意義、活動内容や活動場所などを学ぶ。
- ・自分の意見を押し付けない、個人情報を守る、医療行為に踏み込まないなどのピアサポートを行うにあたって、最低限知っておいてほしいことや、必ず守ってほしいことを学ぶ。

### 自分の体験を語る

- ・ピアサポート時に自身のことを話す場合もあることから、自己の体験を語れるように整理する。
- ・他の受講生が語っている内容を聴くことで傾聴を学ぶ。

### がんの基礎知識

- ・相談者の話を聴く際に知っておくと役に立つ医学的知識を学ぶ。
- ・がん診療の流れ、がんの基本的知識（検査法、治療法、治療後の留意点など）、がん治療（手術、放射線、薬物）、補完代替医療についてなど。

### 緩和医療について

- ・がんに伴って起きるさまざまなつらさを和らげるためのケアとして正しい知識を学ぶ。

### 精神腫瘍学について

- ・がん患者のこころの動きと対応の辞めどき、専門家への紹介の仕方などを学ぶ。

### より良いコミュニケーションのために

- ・服装や言葉使いなど接遇の基本的なことから、話しやすい雰囲気作り、相談者の目線や表情、仕草から読み取れることや、「あいづち」と「繰り返し」の効果を学ぶ。

### ロールプレイ

- ・2日間で学んだことを実習で試し、フィードバックにより良い面も悪い面も全員で情報共有することで個々の対応に活かす。

【プログラム】 1 日目 (10/19)

開始	終了	時間	内 容	講師・担当者
10:00	10:05	5分	諸注意事項等の説明	
10:00	10:10	5分	開講のあいさつ	沖縄県地域統括相談支援センター センター長 増田昌人
10:10	10:15	5分	受講生紹介	
10:15	11:35	80分	講義 ・ピアサポートとは	NPO法人支えあう会「α」 副理事長 野田真由美 様
11:35	11:40	5分	休憩	
11:40	12:30	50分	講義 がんの基礎知識①	沖縄県地域統括相談支援センター センター長 増田昌人
12:30	13:20	50分	お昼休憩	
13:20	14:20	60分	講義 緩和医療について	国立病院機構 沖縄病院 副院長 大湾勤子 先生
14:20	14:30	10分	休憩	
14:30	15:30	60分	講義 精神腫瘍学	沖縄県立精和病院 心療内科 副部長 川田聡 先生
15:30	15:40	10分	休憩	
15:40	16:40	60分	ワークショップ 「体験を語る」	講師 NPO法人支えあう会「α」 副理事長 野田真由美 様
16:40	16:50	10分	アンケート記入	
16:50	17:00	10分	片付け	

2日目 (10/20)

開始	終了	時間	内 容	講師・担当者
9:55	9:58	3分	諸注意事項等の説明	
9:58	10:03	5分	はじめのあいさつ	沖縄県地域統括相談支援センター センター長 増田昌人
10:03	11:00	57分	講義 がんの基礎知識②	
11:00	11:10	10分	休憩	
11:10	12:10	60分	講義 より良いコミュニケーションのために	NPO法人支えあう会「α」 副理事長 野田真由美 様
12:10	13:20	70分	お昼休憩	
12:30	13:10	40分	ロールプレイ打ち合わせ	スタッフ全員
13:20	13:40	20分	ロールプレイの講義・実演	講師 NPO法人支えあう会「α」 副理事長 野田真由美 様
13:40	14:40	60分	ロールプレイ①	
14:40	15:00	20分	ロールプレイ①振り返り	
15:00	15:10	10分	休憩	
15:10	16:10	60分	ロールプレイ②	
16:10	16:30	20分	ロールプレイ②振り返り	
16:30	16:40	10分	アンケート記入	
16:40	16:45	5分	修了書授与	沖縄県地域統括相談支援センター センター長 増田昌人
16:45	16:50	5分	閉講のあいさつ	
16:50	16:52	2分	写真撮影	
16:52	17:30	38分	片付け、終了	スタッフ全員

## 【参加者数】

受講者：10名

## 【振り返り】

- ・大きなトラブルもなく無事に終わることができたが、2日目に疲れが出たのか、体調がすぐれない方が1名いた。お声掛けしながら、ゆっくり休み休み受講したことで最後まで乗り切れ安心した。
- ・今回、講義「ピアサポートとは」で追加項目（内容）があり、時間を延長して行った。少し長いのではと思ったが、その中での教えが響いたようでメモを取る姿が多く見られた。今回は調整できなかったが、ファシリテータ（相談員）も受講すべきだった。
- ・講義「緩和医療」「精神腫瘍学」で内容が若干かぶっていたので、今回はその辺の打ち合わせも必要。
- ・ロールプレイでは4セッション、模擬相談演習としてピアサポーター、利用者、観察者をそれぞれ演じてもらい、体験者の立場だけでなくそれぞれの役を通して感じたこと、気持ちを理解していたようだったが、見たり聞いたりするだけでなく、模擬演習とはいえ実際にピアサポートしてみると難しいとの意見が大半を占めた。しかし、後ろ向きになることなく、何とかしてあげたい、力になりたいという気持ちが伝わってきてとても良かった。
- ・受講生に患者会の方もおり、今まで何度か自分なりのピアサポートをしてきたが、受講したことで違いが分かり、気づいたことを今後活かしていきたいと話してくれた。ピアサポートの難しさを痛感したものの、必要性・重要性を改めて感じたようで、できる範囲でお手伝いしていきたいと話していただき良かった。
- ・今回も千葉県より講師をお呼びしたが、前回の反省点も踏まえ、詳細部分について何度も事前に確認。また、ファシリテーターが一人急遽参加できなくなり調整が必要であったが、前日に打ち合わせしたことでスムーズに進行できた。

## 【反省点】

- ・2日間なので時間・内容的にも余地がないのは毎回否めないが、受講生の年齢・体力・体調だけでなく、その日の天候も考慮し休憩時間を増やすなど再考が必要。
- ・ファシリテーター同士の意思疎通が不十分な面も見られ、当日だけでなく前日もしくは前もって打ち合わせするなど調整が必要。

## 【今後の課題】

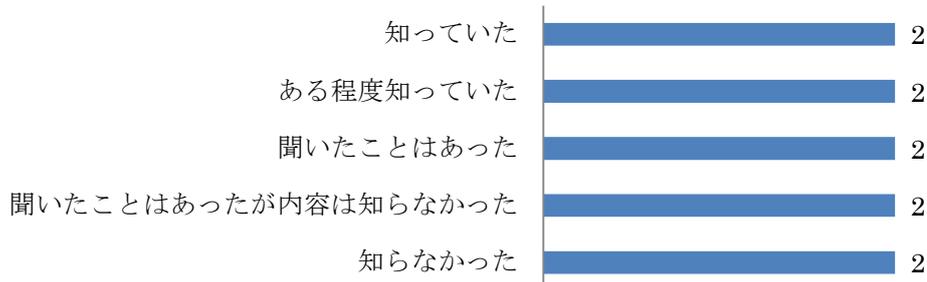
- ・医療機関や患者会との連携だけでなく、主催する病院の協力を大前提として広げていく必要がある。

【アンケート集計結果／回答者 10 名】

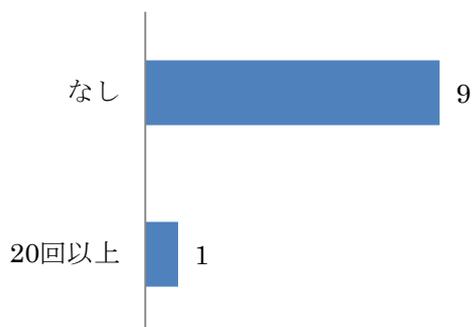
Q 1. 養成講座に参加したきっかけ

- ・自分の体験を活かして、同じがん患者やその家族の少しでも力になりたい、何か手助けができればと思ったから。
- ・私自身、がん体験者のお話を聞いたことで前向きになれたので、今度はお返ししたいと思ったから。
- ・がん患者に対する病院職員の声掛けや接し方を見て、自分にも何かできないか、また自分のためにもなると思ったから。
- ・家族ががんになったことで、少しでも知識を得たいと思ったから。
- ・以前、ボランティア養成講座を受けたが、今回ピアサポーター養成講座も受けることにより知識や理解を深め、さらに多くの方の支援ができると考えたから。
- ・医療者だが、自分ががんになったことで同じ立場として患者さんの心のケアができるのではと思ったから。

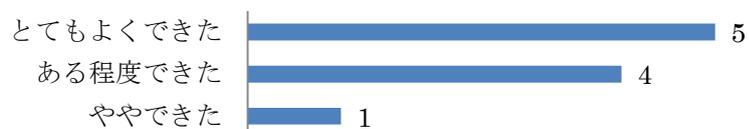
Q2.ピアサポート活動（またはピアサポーター）を知っていたか



Q3.ピアサポート歴

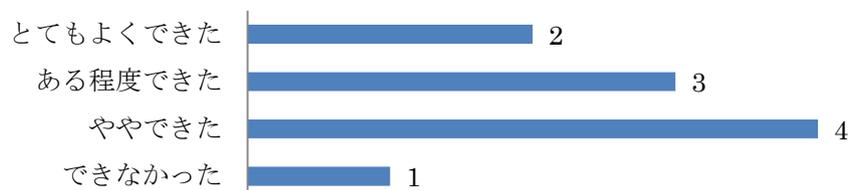


#### Q 4. 1日目の講義内容は理解できたか



- ・初めて聞く言葉や勘違いしていた部分も含めて、改めて本当の意味を知ることができた。
- ・やはり、スマホやネットで調べたのとは違うので聞き入った。
- ・スライドやお話も分かり易く説明してくれ、理解できた。

#### Q 5. 「自分の体験を語る」では、自分なりに語れたか



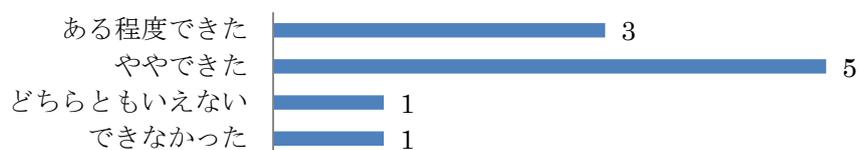
- ・頭が真っ白になり、伝えたいことの半分もお話しできなかった。
- ・時間内にまとめることが難しかった。
- ・今まで人前で体験談を語ることはなかなかできなかったが、意外に冷静にできた。

#### Q 6. 2日目の講義内容は理解できたか



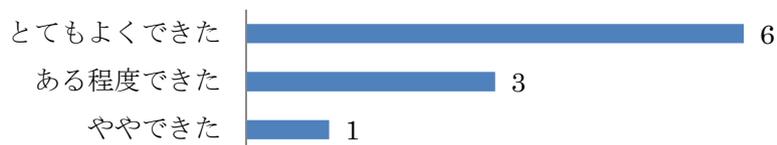
- ・離島事情など、がんに関する情報を知ることができた。
- ・コミュニケーションのとり方が分かり易く説明されていた。
- ・カウンセラーの勉強もしたことがあるが、共通する部分も感じつつピアサポーターとの違いがとてもよく分かった。

### Q7. ロールプレイでは自分なりにできたか



- どの役も実際にやってみると難しかった。
- 目の前に利用者がいると、無責任なことは言えないと言葉に詰まってしまった。
- 「聴く」「待つ」ことが難しく、間が空くと焦ってしまった。

### Q8. ピアサポート活動について理解できたか



- どの役も実際にやってみると難しかった。
- 目の前に利用者がいると、無責任なことは言えないと言葉に詰まってしまった。
- 「聴く」「待つ」ことが難しく、間が空くと焦ってしまった。

### Q9. ピアサポーターとして活動する上で不安はあるか



- 利用者の気持ちを受け止められるか。
- 気持ちだけでなく、言葉で相手に伝えることができるか。
- ピアサポートしているつもりでも、自分の考えを押しつけたり余計なことを話したりしないか。

### Q11. どのようなフォロー体制があるといいか

- ・対応に戸惑ったとき、すぐにフォローしてもらえるよう、1人ではなく2~3人でのピアサポートが望ましい。
- ・病院や地域との連携があると心強い。
- ・定期的な勉強会、懇親会があればいい。

### Q12. ご意見・ご感想

- ・仲間ができただけでなく、その仲間がいたから2日間頑張れた。
- ・自分の体験に知識が加わってこそピアサポートに活かされると思った。
- ・同じ境遇の方に教えてあげたい。もっとピアサポーターが増えてほしいと思った。
- ・医療従事者が理解してくれると、もっと輪が広がるのでは。
- ・実践となると不安は残るが、ピアサポートの意義を知ることができよかった。
- ・相手だけでなく自分にも向き合いながら、ピアサポーターとして頑張っていこうと思った。

### 【当日の様子】



▲講義「ピアサポートとは」「より良いコミュニケーションのために」



▲講義「がんの基礎知識①②」



▲講義「緩和医療について」



▲講義「精神腫瘍学」



▲ワークショップ「体験を語る」



▲ロールプレイ



▲養成講座終了後の集合写真

【案 内】

**令和元年度  
がんピアサポーター  
養成講座**

「ピア」とは「仲間」という意味です。  
「ピアサポーター」は、**がんという病気を体験した方やそのご家族が仲間（ピア）として「体験を共有し、ともに考える」同じ立場で聴いたり体験をお話することで、がん患者やその家族を支える活動**のことです。「ピアサポーター」を行う人を「ピアサポーター」といいます。あなたの体験を活かしてみませんか？

日 時	令和元年10月19日(土) 10:00~17:00 10月20日(日) 10:00~17:00 全2日開催
会 場	琉球大学医学部附属病院 大学院セミナー室
受講条件 ※すべてに 該当する方	① がん患者およびがん患者のご家族またはご遺族の方 ② 最終治療後2年以上が経過し、現在病状の安定している方 ③ 全日程（2日版）参加できる方 ④ 受講後、治療や仕事、生活に支障がない範囲で当センターの登録がんピアサポーター（ボランティア）として活動できる方
定 員	10名 ※定員になり次第締め切りとさせていただきます。
受講料	無料
申込方法	申込用紙にご記入のうえ、お電話、FAX、電子メール、郵送または直接 当センターまでお持ちください。
申込締切	令和元年9月25日(水) 必着
主 催	沖縄県地域統括相談支援センター（令和元年度 沖縄県委託事業） ※研修内容については裏面をご覧ください。⇒

**令和元年度  
がんピアサポーター  
養成講座 受講生募集！**

	時 間	内 容
1日目 10月19日(土)	9:30~受付 10:00~17:00 (途中休憩あり)	講義 ・ピアサポートとは何か？ ・がんの基礎知識 ・緩和医療について ・精神看護学 アイスブレイキング ワークショップ ・自分の体験を語る
2日目 10月20日(日)	9:30~受付 10:00~17:00 (途中休憩あり)	講義 ・がん情報について ・知っておくと良い情報 ・より良い「コミュニケーション」のために ロールプレイ ・講義、実演 ・振り返り

※受講参加者には、当センターより後日参加決定通知書を送付いたします。  
※全日程を受講した際、修了証をお渡ししますが資格として認定されるものではありません。  
※講座終了後、治療や仕事、生活に支障がない範囲で、当センター登録のがんピアサポーターとして活動に参加していただきます。

【お問い合わせ】  
沖縄県地域統括相談支援センター  
(がんピアサポート相談室)  
〒903-0215  
西原町字上原207番地  
琉球大学医学部附属病院 3階  
T E L 098-942-3407  
F A X 098-942-3408  
メールアドレス  
info@gansoudan-okinawa.jp

▲チラシ表面

21面から  
あまくまき健康局  
19面へ

がん患者さんやご家族、ご遺族の方へ  
「ピア」とは「仲間」という意味です。  
「ピアサポーター」は、**がんという病気を体験した方やそのご家族が仲間（ピア）として「体験を共有し、ともに考える」同じ立場で聴いたり体験をお話することで、がん患者やその家族を支える活動**のことです。「ピアサポーター」を行う人を「ピアサポーター」といいます。あなたの体験を活かしてみませんか？

【お問い合わせ】  
沖縄県地域統括相談支援センター  
(がんピアサポート相談室)  
〒903-0215  
西原町字上原207番地  
琉球大学医学部附属病院 3階  
T E L 098-942-3407  
F A X 098-942-3408  
メールアドレス  
info@gansoudan-okinawa.jp

▲令和元年8月29日(木)付  
琉球新報/レキオ

▲チラシ裏面

敬老の日イベント  
肝高の阿麻利  
令和元年8月30日  
098-964-6611

▲令和元年8月29日(木)付  
沖縄タイムス/ほーむぷらざ

令和元年度

がんピアサロン  
(リレー・フォー・ライフ)  
開催報告

実施日：令和元年 11 月 9 日 (土)

## 【名 称】

がんピアサロン

## 【目 的】

ピアサポーターや他の参加者と語り合うことで不安や気持ちを分かち合い、情報を交換しながら病気に対する不安軽減につなげる。

特に話すことがなく情報を求めている人にも、ピアサポーターのがん体験談を聞いたり、がんに関する資料等を得られるよう情報コーナーを設置し提供する。同時にパネル展示も行い沖縄県地域統括相談支援センターに関する情報も提供し、支援体制の周知と相談室の利用率向上を図る。

また対応経験を重ねることによりピアサポーターの資質を高める。

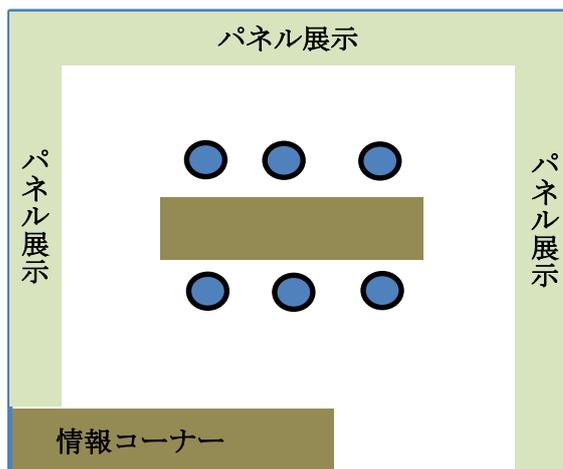
## 【概 要】

1. 日 時 令和元年 11 月 9 日 (土) 15 : 30～17 : 30
2. 場 所 浦添市てだこ広場 (リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019 沖縄  
うらそえ内)
3. スタッフ 沖縄県地域統括相談支援センター  
センター長、事務補佐員 1 名、相談員 3 名、ピアサポーター 5 名
4. 主 催 沖縄県地域統括相談支援センター (令和元年度 委託事業)
5. 対 象 がん患者、家族、遺族、医療関係者および関心のある方
6. 参加費 相談、サバイバー：無料  
その他：リレー・フォー・ライフ・ジャパンへの参加費 1,000 円

### 【タイムスケジュール】

開始	終了	所要時間	内容	詳細
14:00	15:00	60分	準備	情報コーナー設置 ①がん冊子（見本） ②がんサポートハンドブック ③療養場所ガイド ④各種案内チラシ  ピアサポート展
15:20	15:30	10分	サロンの流れ確認 受付～	
15:30	17:30	120分	フリートーク	
17:30	18:00	30分	反省会（振り返り） 片付け	

### 【会場レイアウト】



\*昨年度は2/1張りテントだったが手狭だったため、今年は1張り使用。

【参加人数】 3名

### 【振り返り】

- ・若いご夫婦がいらして子ども、お仕事について相談があった。同じがん種のピアサポーターを中心に全体での対応となったが、とてもデリケートな内容であると同時に、世代の違いも感じ対応が難しく考えさせられた。どれが正解といのではないが、出産、養子縁組など選択肢はあるとお伝えし、途中涙を流すもお帰りの際には笑顔が見られたので、一様にホッとした。その中で患者会のお話も出たので、イベントに参加していた「宇宙船子宮号」の方にも声をかけ対応してもらったが、若くしてがんを経験した「Be style」にも紹介すべきだった。
- ・教師の方がいらして辛い病状をお話された。しかし、がんを公表したことで生徒も含めた学校全体でフォローしてくれる、励まされていると笑顔でお話される姿に、逆にこちらが励まされた。
- ・何とか手助けになればという思いでお話を聞いたり、それぞれの体験を話したが、ピアサポーターとしての限度、踏み込めない場面など改めてピアサポートの難しさを感じたとの意見が占めた。
- ・先日の養成講座を修了したばかりのピアサポーターも参加したが、「同じがん体験者の方とお話しができてよかったし、心に響いた」との声を受け、微力ながら経験を積んで頑張りたいと話してくれよかった。
- ・事前にお問い合わせいただいた方が参加してくれよかった。

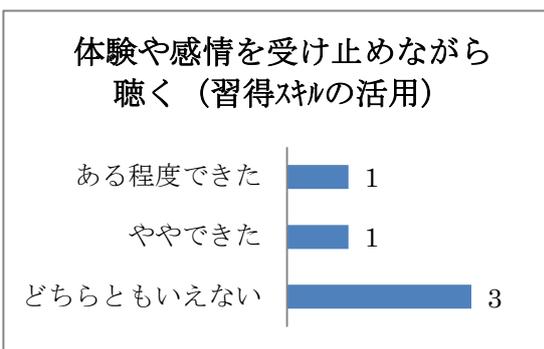
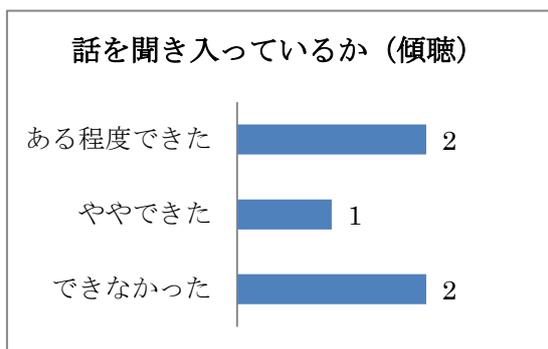
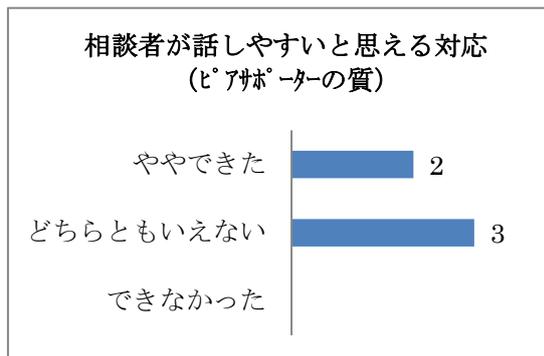
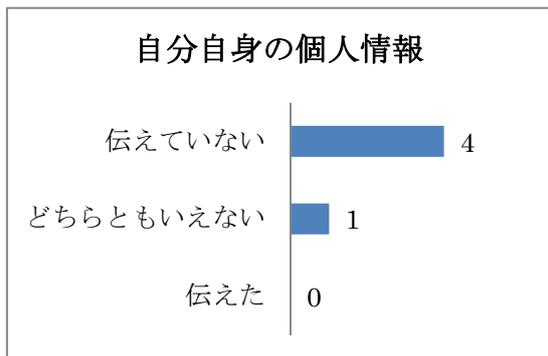
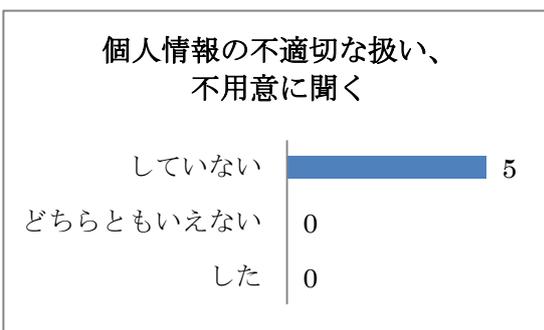
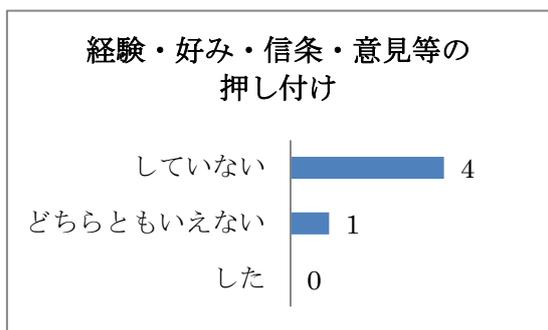
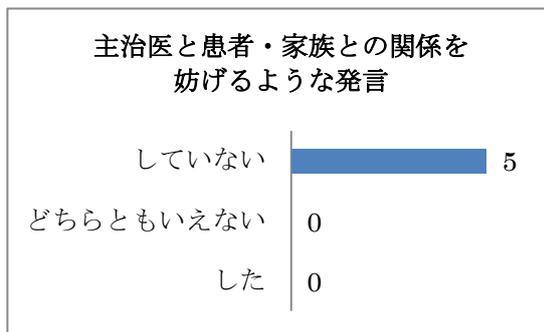
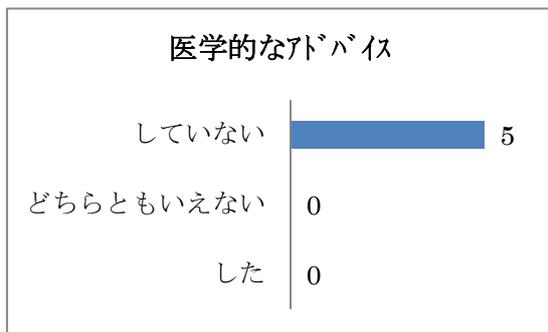
### 【反省点】

- ・初参加のピアサポーターがいたにもかかわらず、集合時間に全員が揃わず事前の打ち合わせがしっかりとできなかった。緊張している中、戸惑わせてしまった部分が大きかった。

### 【今後の課題】

- ・屋外でのイベントなので天候等に左右されやすいのは仕方ないが、今回は風が強く肌寒かったせいか参加者が少なかった。毎回、各関係先にも案内しているが、まだまだ周知不足は否めない。さらに検討が必要。

【自己チェックシート集計結果／回答者 5 名】



## ピアサポートを実施してみた

- ・実際にお話を聴くことは簡単のようで難しかった。
- ・難しい相談内容ではあったが、その気持ちに寄り添いたいと思った。
- ・同じがん種のピアサポーターだけでなく、それぞれが体験をお話することで少しは安心に繋がったのではないかと。
- ・世代、価値観の違いなども意識して対応しなければと思った。
- ・今後のことが不安の様だったが、帰る際に笑顔が見られたので良かった。

### 【当日の様子】





令和元年度

がん相談できる島づくり がんピアキャラバン  
開催報告

実施日：令和元年 12 月 20 日（金）

## 【名 称】

がん相談できる島づくり がんピアキャラバン

離島やへき地を含む沖縄全域に出向き、地域のがん関係者等との協働によりがん患者支援を行うものである。主たる内容はがんピアサポーターや医療者によるがん相談とし、支援体制の普及啓発活動も同時に行う複合イベントである。

## 【目 的】

### 1. がん患者や家族の不安軽減

専門家による相談会や、当事者同士ががんに対する不安や悩み・気持ちを分かち合い、必要とする情報を交換し合うことで病気に対する不安軽減につなげる。

### 2. がんピアサポートの周知

他者へのがん相談の機会が少ない地域へ、センターの相談員によるピアサポートを提供することでピアサポートを知る機会を与え、地元のピアサポーターの活用につなげる。

## 【概 要】

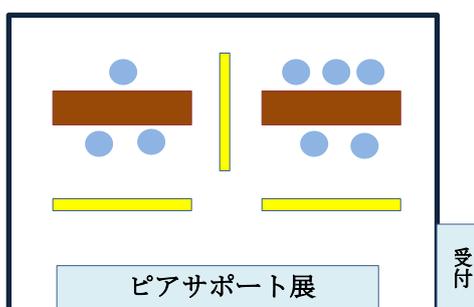
1. 日 時 令和元年 12 月 20 日 (金)
2. 場 所 北部地区医師会病院 〒905-8611 名護市字宇茂佐 1712-3
3. スタッフ 沖縄県地域統括相談支援センター  
琉球大学医学部附属病院がんセンター  
センター長、事務補佐員 2 名、相談員 1 名、ピアサポーター 2 名
4. 主 催 沖縄県地域統括相談支援センター (令和元年度 沖縄県委託事業)  
琉球大学医学部附属病院がんセンター
5. 協 力 北部医師会病院
6. 対 象 地域住民の皆様
7. 参加費 参加無料・相談無料

- <相談会> 10:00~11:30 **\*当日受付**  
全3回(各30分) 開始時間 10:00、10:30、11:00 予定  
相談会① 医師による相談  
相談会② がんピアサポート相談
- <パネル展> 10:00~15:00

### 【タイムスケジュール】

開始	終了	時間	内 容
9:00	9:30	30分	手荷物搬入、会場設営
9:30	9:50	20分	事前打ち合わせ (自己紹介、がんピアサポーターの心得読み合わせ) 北部地区医師会病院スタッフとの打ち合わせ
10:00	10:30	30分	相談会1回目、ピアサポート展スタート
10:30	11:00	30分	相談会2回目
11:00	11:30	30分	相談会3回目
11:40	12:00	20分	振り返り
12:00	12:10	10分	会場片付け、一時退館（北部看護学校へ移動）
15:00			ピアサポート展終了、退館

### 【会 場】2F会議室



①：医師による相談

②：がんピアサポート相談（3名1組）

\*ホワイトボードで仕切り、相談者同士があまり顔を合わせないように配慮。

\*ピアサポート展は同室だけでなく、1F正面玄関にも設置。

### 【参加人数】

①医師による相談2件    ②がんピアサポート相談3件    計9名

### 【振り返り】

- ・天候不良のため1名キャンセルあり。
- ・地域性を考えると、なかなかご自身から足を運んでくれることは難しいのではと思っ

ていたが、北部地区医師会病院スタッフの周知、お声掛けにより 9 名の方が来ていただき、こちらとしても励みになった。

- ・告知されて間もない、来月手術を控えている、再発、お仕事など不安なことが多く重く感じたが、相手の表情を見ながら対応するよう心がけ、帰る際、笑顔を見せてくれたことで安心した。
- ・自身の体験を交え家族のサポートが大事だと話すと、付き添いでいらしていたご家族の方も笑顔を見せてくれ、ホッとした。
- ・「また聴いてほしい」と言ってくれ、間違っていなかったと安堵した。
- ・患者会を立ち上げたいという方、まずは院内ゆんたく会を手伝うなどし輪を広げていってどうかと助言。北部地区医師会病院スタッフも同席していたので、協力体制を確認できた（医師による相談）。

### 【反省点】

- ・ピアサポーターの心得やここでの約束事といった内容を事前打ち合わせの際に行ったが、話しやすい雰囲気づくりや話を引き出す手立てとしてピアサポーターからのあいさつ、自己紹介するといった詳細部分の確認が抜けていたため、最初手間取った。毎日対応している訳ではなく、久しぶりにピアサポートするピアサポーターもいることから、その都度初心にかえり、確認もしくは声かけする必要がある。また、自分の体験をただ話すのではなく、内容をきちんと整理し対応した方が相手も安心するのではないか。

### 【今後の課題】

- ・パネル展は、会場となった 2F 会議室と 1F 正面入口で開催したが、天候不良で風が強くと冊子やチラシ等は配置することができず、パネルのみとなった。広く周知するためにも 1 日だけでなく 1 週間ほど期間を設けて設置した方がいいが、スペースがない場所での展示方法等を考慮する必要がある。
- ・北部以北に患者会やゆんたく会がほとんどして稼働おらず、強化を図るためにも次年度以降継続して開催する必要がある。

【当日の様子】



▲相談会



▲がんピアサポート展／2F 会議室

▲1F 正面玄関

【案内チラシ】

誰かに話を聞いてほしい。  
わたしと同じ思いをいている人はいるの？  
家族として何が出来るだろう？

令和元年産  
沖縄県委託事業  
がん相談できる勇づくり  
がんピアカラバン

**1日限りの  
がんサロン**

**相談無料**

**12/20(金)**

北部地区医師会病院  
10:00~11:30  
各30分ずつ 計3回

ひとりでは不安なまま  
いっしょなら共感できる

「がん」と診断されると誰でも不安になります。  
わたしたちも経験しました。わたしたちは仲間です。  
不安や心配ごと、心の整理をしてみませんか。  
琉大病院で活動しているピアサポーターがおしゃべります。

お気軽に  
ご参加ください。

【お問い合わせ】  
\* 沖縄県地域統括相談支援センター (がんピアサポート相談室)  
TEL 098-942-3407 FAX 098-942-3408  
\* 北部地区医師会病院 がん相談支援センター  
TEL 0980-54-1111 (内線2150)

## 医療機関への説明会 参加報告書

### 【名 称】

医療機関への説明会

### 【目 的】

ピアサポート事業を広く周知するための普及活動として、医療機関への説明会を開催するとともに各関係機関との連携を図る。

### 【概 要】

1. 日 時 令和元年 12 月 20 日（金） 13：00～14：30  
●「ピアサポート事業とがんについて」  
●「わたしのがんピアサポート」
2. 場 所 公益社団法人 北部地区医師会病院 北部看護学校 5階講堂
3. スタッフ 沖縄県地域統括相談支援センター  
琉球大学医学部附属病院がんセンター  
センター長、事務補佐員 2 名、相談員 1 名
4. 主 催 沖縄県地域統括相談支援センター
5. 共 催 琉球大学医学部附属病院がんセンター
6. 参加者 北部看護学校（職員・学生含む）約 280 名

### 【内 容】

ピアサポート事業、がんサポや療養ガイド等について周知するため、説明会（ミニ講演会）を行った。終業式と同日だったこともあり、職員・生徒がほぼ全員参加してくれた。

## 【所 管】

ピアサポートが「がん体験者が、がん患者さんやご家族の不安や心配ごとなどと同じ立場で聴いたり体験をお話する活動のこと」ということを、看護学生といえどもやはり大半が知らなかった。また「がんサポートブック」についても同じ反応で、認知度の低さを感じた。2人に1人ががんにかかると言われていたが、罹患者だけでなくその家族や遺族を含めると誰もが係わることで決して他人事ではなく、ピアサポートの重要性が大きくなりつつあると説明。質疑応答では告知やケアなど看護師としての携わり方について多く質問が寄せられた。ピアサポート事業は医療者の理解と協力が不可欠であるが、今後、拠点病院や医療機関だけでなく、今回のようにこれからの医療を担う若い世代、看護学生への説明会をがん患者等支援事業と協働し行うなど、さらに広く周知することが大事だと痛感した。

## 【当日の様子】

